

輸入減少続く

NZ・チリ材

為替、中国の動向が鍵

ニュージーランド(NZ)材・チリ材市場は、為替動向、貿易需要、中国の政策、国産材の供給圧力の4要素が鍵を握る一年となりそうだ。貿易需要は回復基調だが、最大の懸念は為替。円安進行により輸入コストが上昇すること、さらなる需要減少が危惧されている。

2025年の輸入量はチリ産ラジアタ松製材が約14万立方メートル(前年比18%減)、NZ産ラジアタ松丸太が約19万5000立方メートル(同18%減)の予想。3年連続で減少し、過去最低水準を更新している。



瀬崎林業が内航船で運ぶ杉柵包材

24年は1ドル160円台まで低下した円安により日本国内の販売価格が上昇、杉材などへのシフトが進んだ。25年は円安が一服したが海上輸送費や港湾荷役費、倉庫料などの上昇で同材の販売価格は高止まりした。チリ産ラジアタ松製材は6万3000円(梱包会社着、立方メートル、燻蒸費込み)、NZ産ラジアタ松国内挽き製材は6万6000円前後(同)で推移している。

産地価格は、チリ産ラジアタ松製材は薄板・割板とも340ドル(C&F、立方メートル)、NZ産ラジアタ松丸太で150~160ドル(同)だが、海上輸送コストの上昇もあり、今年、産地価格は上昇の可能性もある。一方で、円安がさらに進めば、円安分の相殺で産地価格を調整する可能性もあるだろう。中国の報復措置による輸出停滞リスクも懸念材料。機械・プラント類などの中国向け輸出が鈍れば、さらなる需要減も想定される。

需要減は供給形態の変化も生む。チリ大手CMPCがバルク船によるアラウコ社との共同輸送から単独コンテナ輸送へ切り替えた。今年、供給量がさらに減れば、アラウコのバルク船輸送の実施も困難になる恐れがある。

輸入コストは、チリ産ラジアタ松製材で5万8000円前後(オントラ、立方メートル)、NZ産ラジアタ松丸太で7000円前後(CIF、JAS石)と高止まりし、杉柵包材とのコスト差が1万円以上に広がっている。いかに減少基調を食い止めるかがNZ・チリ材市場の課題となる。